やつおもて18号墳

——やつおもて18号墳と旭町の古代史——

1990

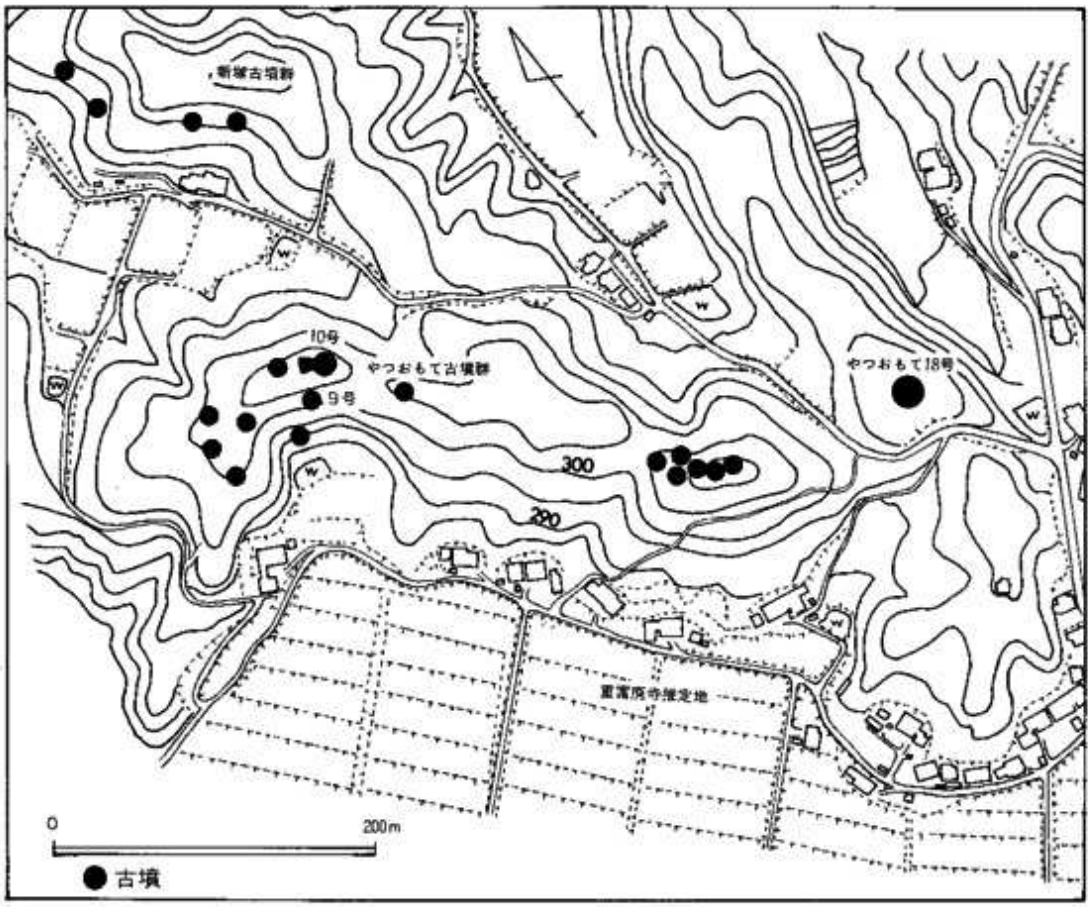
島根県・旭町教育委員会

はじめに

旭町は、島根県のほぼ中央にあって浜田市より南西25kmに位置し、広島県々境の中国山地を背にする町です。古くは中国山地に産する砂鉄による鉄生産が主要産業でした。

やつおもて古墳群は、通称重富（しげとみ）といわれる集落の裏山の中に存在しており、今からおよそ1600年前（6世紀頃）につくられた約20基の古墳で構成されています。また、近くを流れる重川富沿いの水田の中からは、古代瓦や土器の破片がたくさん発見され、寺院のあったことが知られます。このことから、旭町では重富あたりが古代の中心的な存在であったと考えられています。

この遺跡群の近くに中国横断自動車道が計画されたことにより、やつおもて18号墳がその計画路線内にあることがわかり、旭町教育委員会では、18号墳の規模や性格を確認するために部分的な発掘調査を行いました。



やつおもて古墳と周辺の遺跡

原始・古代の旭町とやつおもて18号墳

重富土壙墓群

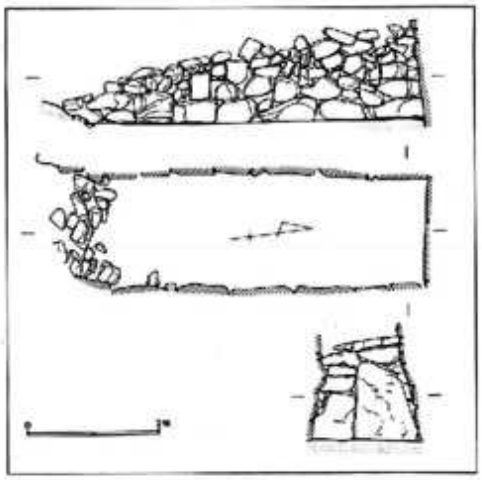
わたしたちがくらしている旭町に、いつから人々が住みはじめるようになったのか今のところよくわかっていません。しかし、旭町と同じように、中国山地にある石見町では、今から約１万年ほど前の先土器時代から縄文時代への移行期のものと考えられている石槍が発見されたり、瑞穂町市木の堀田上遺跡では押型文土器という縄文時代の初め頃の土器が発掘調査されており、今後、旭町でもこの頃の遺跡がみつかる可能性があります。

旭町で人々が生活していた跡がはっきりとわかるようになるのは、約1800年前の弥生時代の終り頃になってからのことです。現在、発掘調査が進められている重富土壙墓群がそれで、丘陵の上に土壙を掘って木棺を直接土中に埋め、いくらかの土器をお供えした簡単なものです。中には二段に掘り凹めた少し大きな土壙墓もみられますが、このようなお墓からは、その当時はまだ特に身分や貧富の差があったとは思われません。また、上本郷の溝下から発見されている高坏は弥生時代中期のもので、さらに古い時代の遺跡が存在する可能性を示しています。

このような社会の中で、古墳時代になると、旭町に突如として一つの大きな古墳がつくられることになります。やつおもて18号墳です。それまでの弥生時代の土壙墓群とは隔絶したかたちであらわれ、直径21ｍ、高さ３ｍ、二段の円墳に築かれて、少し遠くからでも人々の視覚に訴えるものがあります。

上本郷出土弥生土器

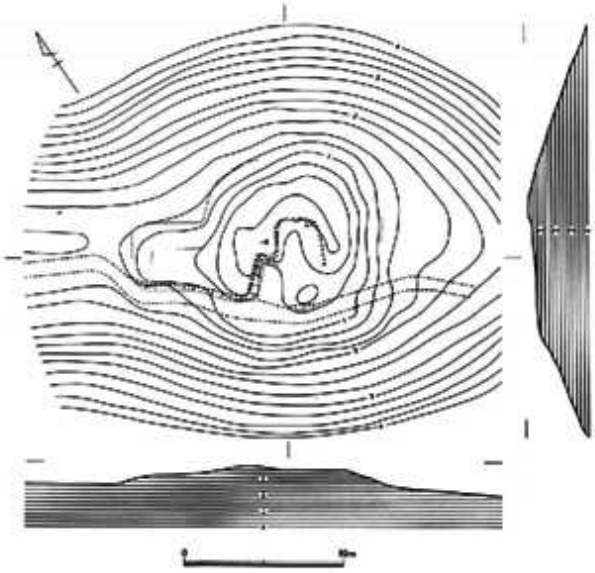
こうした古墳は、４世紀頃大和地方に成立した日本ではじめての統一政権である大和政権と各地方の有力な豪族たちが政治的な関係を結んだ結果として出現したと言われています。旭町におけるやつおもて18号墳の出現は、このあたりが原始社会から古代社会にむけて一歩ふみだし、最初の首長が誕生したことを物語っています。



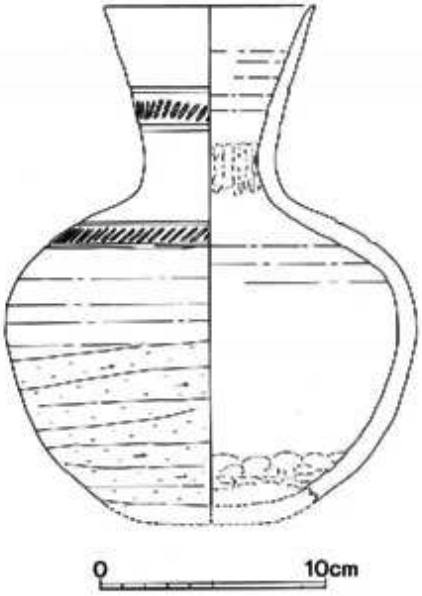
やつおもて９号墳石室実測図

やつおもて９号墳の石室（横穴式石室）

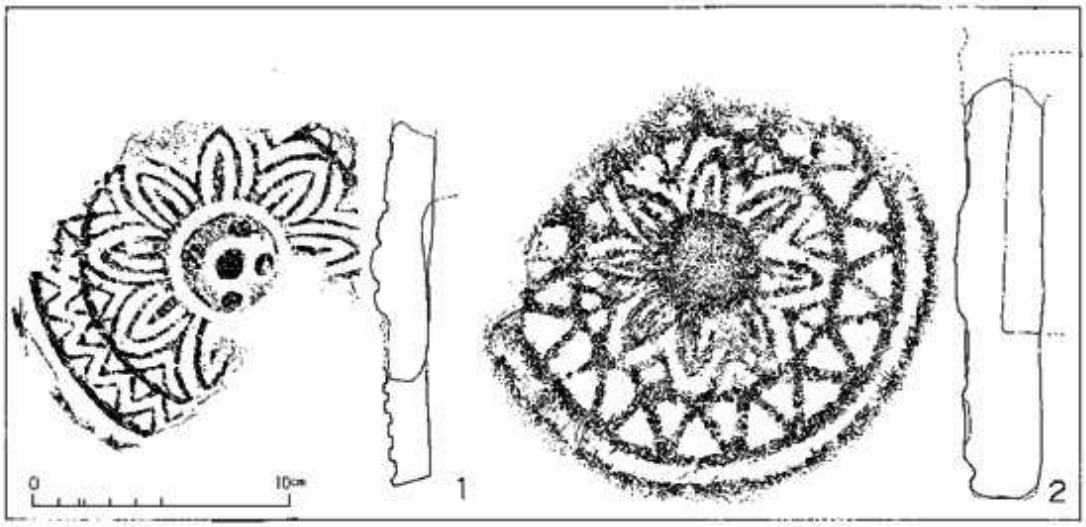
古墳時代も６世紀代になると、やつおもての丘陵上には、石で室をつくり(横穴式石室)、土を盛った小規模な古墳が次々と築かれるようになりました。現在のところ10号墳の前方後円墳１基を含む約20基が確認されています。それ以前の古墳が一度きりの埋葬であったのが、入口を開けば何人でも追葬することのできる横穴式石室へと変わりました。副葬品も、大刀や馬具、須恵器など豊富になります。やつおもて古墳群の北側にある新塚古墳群や、山ノ内古墳群も同様で、このような古墳群は後期群集墳と呼ばれ、この時代になると古墳を築き、埋葬される人々が増えてきたことを示しています。



やつおもて10号墳実測図



やつおもて10号墳出土須恵器



旭町重富廃寺の瓦(1)と浜田市下府廃寺の瓦(2) 林 健亮 原図

古墳の造営が行われなくなる７世紀代になると、大和政権の内部に政治的な大きな変化が起こるようになります。645年の大化改新や672年の壬申の乱は、その後の日本を律令制国家へと成長させた重大な事件でした。これによって全国にいくつかの国が設定され、各国はさらにいくつかの郡にわけられました。

石見地方が石見国として認識されるのもこのころからで、旭町は奈良時代や平安時代には、石見国那賀郡都於郷に属していました。那賀郡という郡名が古代にさかのぼる古い地名で今日まで生きていることが知られます。

郡には長官としてその地方の有力豪族が郡司に任命されました。やつおもて古墳群のある丘陵の一角に奈良時代に建てられた重富廃寺跡がありますが、この寺院は那賀郡の郡司たちによって建立された可能性があるものです。建立された当時は、恐らく「○○寺」という寺院名がつけられていたことでしょう。ここから出土している軒丸瓦の文様は、同じ江川の下流域にある浜田市下府廃寺跡から発見されているものと同じ文様です。これらの瓦当文様は他に類例がなく、文様を通して二つの寺院が互いに深い関係にあったことが推定できます。

那賀郡の郡司には、権大領の久米岑雄と、主帳の久米福雄の２人の名が知られていますが、いずれも久米氏であることが注意されます。那賀郡では久米氏一族が有力豪族であり、重富と下府の二つの寺院の建立や経営にも携っていたことが考えられます。

このようにみると、やつおもて18号墳に葬られた人は、後に那賀郡に勢力を誇った久米一族の遠い先祖の一人であったと想像することができます。

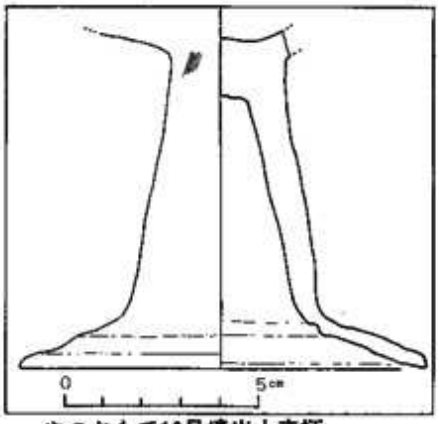
やつおもて18号墳の調査

やつおもて古墳群は、横穴式石室を内部構造として、前方後円墳一基の他は、径10m前後の小円墳17基からなるグループと、隣の丘陵頂部に独立してある規模の大きな18号墳との二つに分けられます。これまでに知られている内部構造（横穴式石室）や、出土している遺物、古墳の立地や墳形、規模などから、前方後円墳を含むグループは古墳時代後期の群集墳であり、18号墳は、それ以前の古式の古墳であり、やつおもて古墳群の中では少し異質な存在であると推測されていました。

発掘調査は、古墳の頂部を除いて、東西南北方向に幅２ｍの試掘壙（トレンチ）を入れました。これは、発掘調査前に作った古墳の測量図から推定されていた、規模・築成方法・時代などを明らかにしようとするものです。

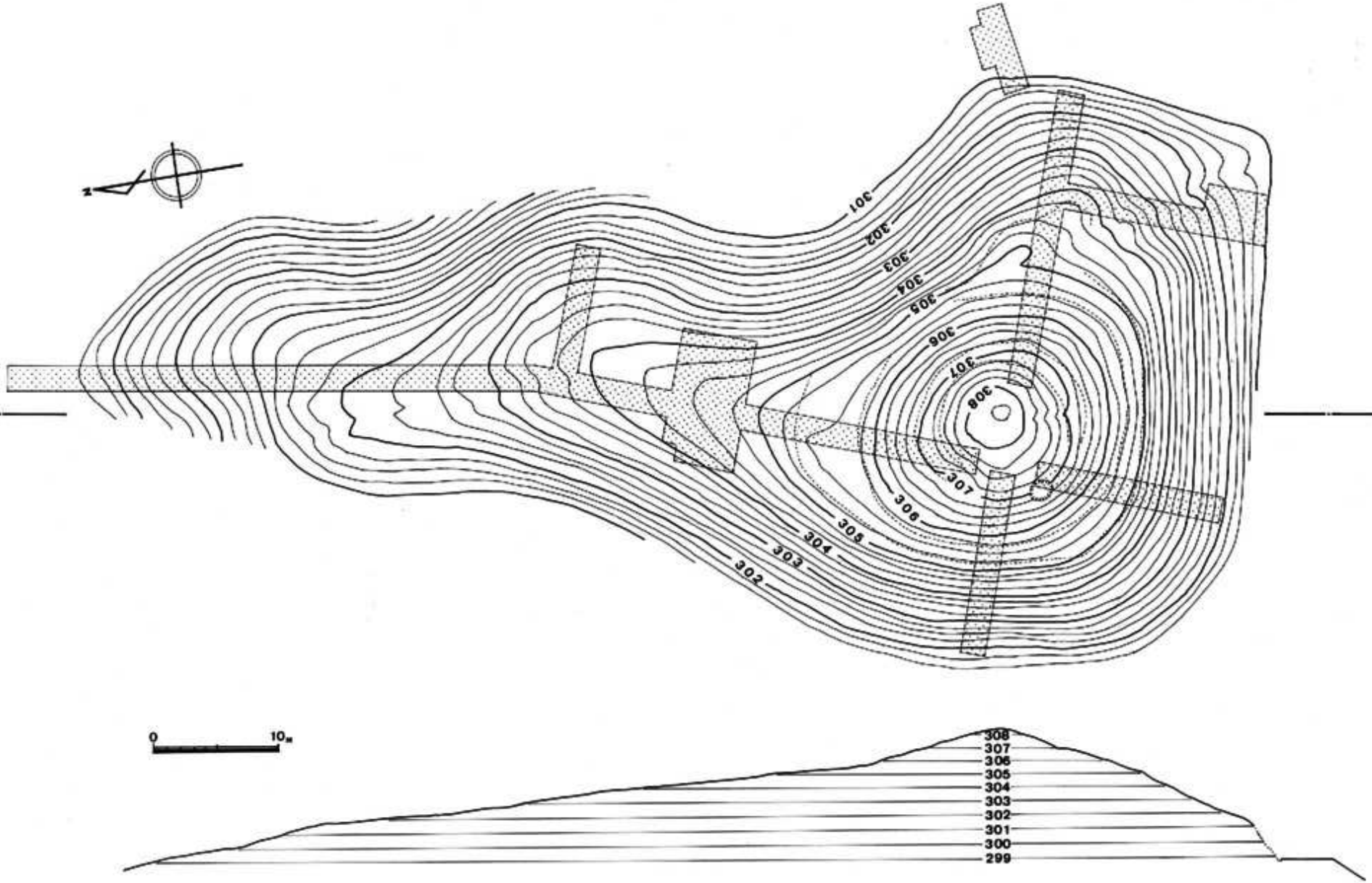
調査の結果は、古墳の規模が、直径26～27ｍ、高さ４～５ｍ、２段に築かれた円墳で、ほぼ調査前の推定通りであることがわかりました。測量図からではあまり明確ではなかった南側においても段築（テラス）が確認され、その様子と試掘壙の土層観察から、古墳の裾から中間の高さにあるテラスまでは、もとよりあった丘陵（地山）を円形に削りだし、その上に削った土を盛り上げて２段に築成していることが推定できました。さらに、古墳の北側では、裾に沿って幅２ｍの溝も発見されました。この溝は古墳の裾にある平坦面につながっています。これによって18号墳の裾には平坦面がとりまいていることがわかりました。

出土した遺物は、墳丘の東側裾から土師器の高坏があります。18号墳の発掘調査区内では今のところ唯一の遺物で、もとより墳裾に置かれていたか、あるいは墳頂部にあったものが移動したものと考えられます。この高坏は古墳時代前期～中期のものであり、18号墳の築成された年代を示していると判断されます。とすれば、18号墳は石見地方の中でも数少ない最も古い古墳の一つにあげることができます。



やつおもて18号墳出土高坏

やつおもて18号墳のような規模の円墳は、島根県全体でも僅か30基を数えるにすぎません。このうち、29基が出雲部にあるということから、18号墳は、石見部で第一位の規模の円墳であることが言えます。このようにやつおもて18号墳は、旭町のみならず、石見地方の歴史を解明するのに欠くことのできない極めて重要な資料です。


N
301
302
303
304
305
306
307
308
0
10m
308
307
306
305
304
303
302
301
300
299

旭町古代史年表

時代区分	弥生時代	古墳時代					飛鳥	奈良	平安
西暦		300	400	500	600		700		800
旭町	上本郷遺跡	重富土壙墓群	やつおもて18号墳		山ノ内古墳群 やつおもて古墳群	福原横穴群		大迫古墳 重富廃寺	
その他の地域	波来浜墳墓群（江津）	四隅突出型墳墓（石見） 浄山土壙墓群（石見） 神原神社古墳（加茂） 大元1号墳（益田）	スクモ塚古墳（益田）	岡田山古墳（松江） めんぐろ古墳（浜田） 郡木古墳（奈良）	鵜ノ鼻古墳群（益田）		天王平廃寺（？）（大田） 下府廃寺（浜田） 石見国分寺（浜田）		
主なできごと	邪馬台国		倭王武 磯撫遠征軍		聖徳太子	大化改新 壬申の乱	平城遷都 出雲国風土記 国分寺	平安遷都 石見国の飢饉	石見国府鎮撫事件

まとめ

以上、やつおもて18号墳の発掘調査の結果と、旭町の原始・古代の歴史の概略を紹介しました。調査の結果を以下のようにまとめて結びとすることにします。

① やつおもて18号墳は、石見地方で最大規模の二段に築かれた円墳で、島根県下でも数少ない大型円墳の一つである。

② その年代は、古墳時代前期から中期にかけてのものであり、石見地方の山間部では最古の円墳の可能性がある。

③ やつおもて18号墳は、後の律令制時代の那賀郡に相当する地方に、最初に出現した首長墓である。

尚、古瓦の図面は林健亮氏の手を煩わし、やつおもて10号墳の実測図は、渡辺貞幸・曳野律夫・松本岩雄・内田律雄の諸氏の作図による。また、9号墳と重富土壙墓群の資料は島根県教育庁文化課から提供をうけた。以上の諸氏と関係機関には深く感謝する次第である。

平成2年3月

『やつおもて18号墳』

——やつおもて18号墳と旭町の古代史——

編集・発刊　〒697-04
島根県那賀郡旭町今市637
旭町教育委員会
(0855-45-1234)